



Broadmedia

2018年度 決算概況

ブロードメディア株式会社

2019年5月10日

本資料に記載されている、当社の現在の計画・見通し・戦略・確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報にもとづき経営陣が判断した予測が含まれております。実際の業績は様々なリスクや不確実な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠することはお控えくださいますようお願い致します。



2018年度決算概要

2019年度業績予想

経営統合について

これからのクラウドゲーム

【参考資料】

- ・ 事業セグメント別の業績

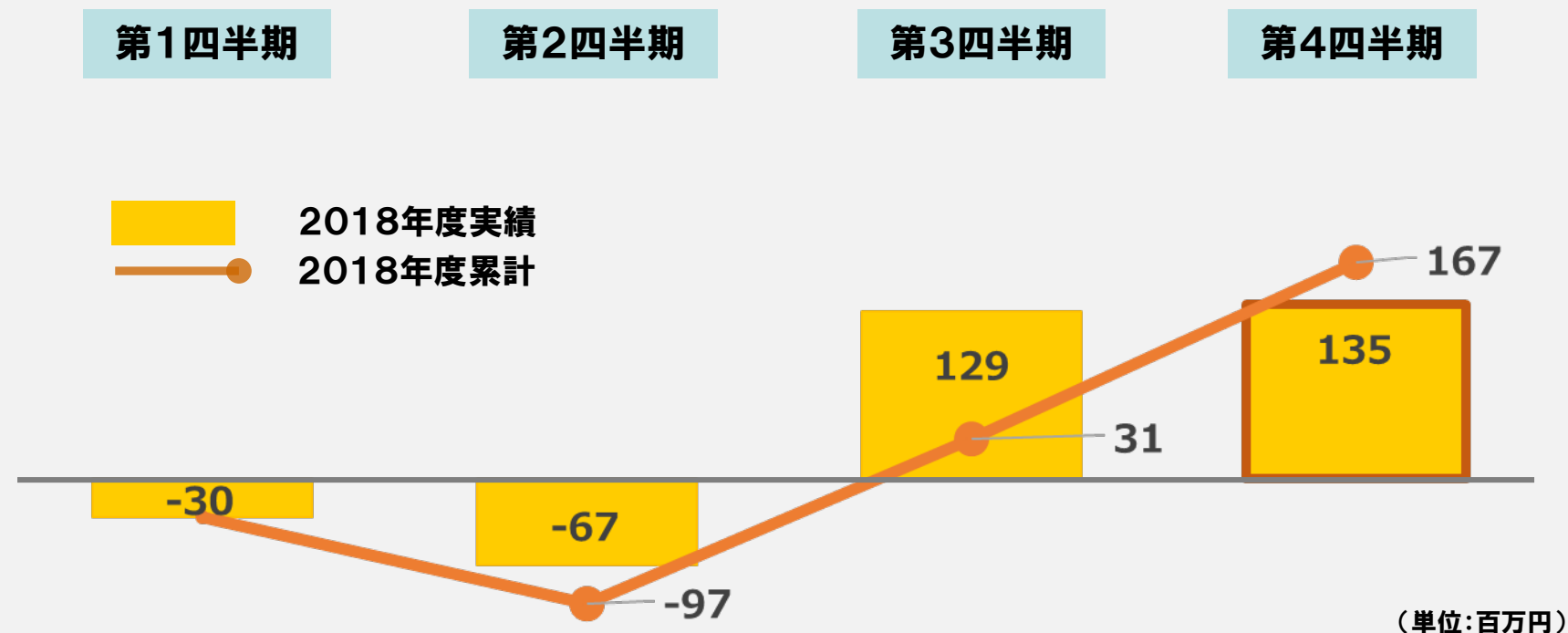
2018年度の連結経営成績

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	2017年度	2018年度	増減額	通期 業績予想 (2月1日発表)	達成率
売上高	10,800	11,123	↑ 322	11,700	95%
営業利益	88	167	↑ 78	100	167%
経常利益	81	203	↑ 121	130	156%
純利益	46	167	↑ 120	100	167%

概況

- 前期と比べて、売上高は増加
- 増収に加え、全社的なコストの抑制効果も寄与し、営業利益は増益
- 貸倒引当金戻入額の計上や、子会社における消費税・法人税等の還付の計上により、経常利益・純利益も増益



- 第4四半期会計期間では、約135百万円の利益を計上
- 事業構造上、営業利益は下期に偏重する傾向
- 釣りビジョン社の架空取引被害に関連する一時費用が、第2四半期累計期間で約150百万円発生したことが影響

事業セグメント別の連結経営成績～対前期～

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	売 上 高			営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	↑ 329	14	146	↑ 132
放 送	2,980	2,901	↓ △ 78	90	162	↑ 72
ス タ ジ オ	2,592	2,270	↓ △ 321	47	△ 36	↓ △ 84
技 術	2,311	2,658	↑ 346	384	460	↑ 75
ネットワーク営業	767	815	↑ 47	4	6	↑ 1
全 社 費 用				△ 453	△ 572	↓ △ 119
合 計	10,800	11,123	↑ 322	88	167	↑ 78

事業セグメント別の連結経営成績～対前期～

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	売 上 高			営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	↑ 329	14	146	↑ 132

+15%

- ✓ セグメント全体では、増収増益
- ✓ 教育サービスは、入学生の増加により増収増益
- ✓ クラウドゲーム事業およびデジタルメディアサービスは、いずれも売上高が伸び、営業損失が縮小

事業セグメント別の連結経営成績～対前期～



(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	売 上 高			営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	↑ 329	14	146	↑ 132
放 送	2,980	2,901	↓ △ 78	90	162	↑ 72

△3%

- ✓ 視聴料収入が減少傾向にあるものの、徹底したコスト削減の取り組みにより、減収増益
- ✓ 架空取引被害を教訓として、ガバナンス体制の強化と収益性向上を目的とした組織改革を進める

事業セグメント別の連結経営成績～対前期～

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	売 上 高			営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	 329	14	146	 132
放 送	2,980	2,901	 △ 78	90	162	 72
ス タ ジ オ	2,592	2,270	 △ 321	47	△ 36	 △ 84

△12%

- ✓ 番組販売事業は、テレビ局向け番組販売が減少
- ✓ 制作事業は、受注が減少
- ✓ 映画配給事業は、前期に貢献したドラマ制作がなかったことが影響し、赤字幅が拡大
- ✓ その結果、売上高が減少し、赤字を計上

事業セグメント別の連結経営成績～対前期～



(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	売 上 高			営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	↑ 329	14	146	↑ 132
放 送	2,980	2,901	↓ △ 78	90	162	↑ 72
ス タ ジ オ	2,592	2,270	↓ △ 321	47	△ 36	↓ △ 84
技 術	2,311	2,658	↑ 346	384	460	↑ 75

+15%

- ✓ CDNサービスは、既存顧客向けの新たなソリューションやサービスの提供が増加
- ✓ デジタルシネマサービスは、好調に推移

事業セグメント別の連結経営成績～対前期～

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	売 上 高			営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	 329	14	146	 132
放 送	2,980	2,901	 △ 78	90	162	 72
ス タ ジ オ	2,592	2,270	 △ 321	47	△ 36	 △ 84
技 術	2,311	2,658	 346	384	460	 75
ネットワーク営業	767	815	 47	4	6	 1

+6%

✓ ブロードバンド回線の販売の苦戦が続くが、利益を確保

事業セグメント別の連結経営成績～対前期～



(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	売 上 高			営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	↑ 329	14	146	↑ 132
放 送	2,980	2,901	↓ △ 78	90	162	↑ 72
ス タ ジ オ	2,592	2,270	↓ △ 321	47	△ 36	↓ △ 84
技 術	2,311	2,658	↑ 346	384	460	↑ 75
ネットワーク営業	767	815	↑ 47	4	6	↑ 1
全 社 費 用				△ 453	△ 572	↓ △ 119

- ✓ 釣りビジョンの架空取引被害に係る一時的な費用(約150百万円)が発生
- ✓ グループ全体を含め、短期的なコストを大幅抑制

資産、負債及び純資産の状況

(単位：百万円)

	2017年度	2018年度	増減額	増減率
総 資 産	6,535	6,557	22	0%
負 債	3,859	3,554	△ 305	△8%
純 資 産	2,675	3,003	328	12%
自 己 資 本	2,187	2,333	146	7%
非支配株主持分	487	669	181	37%
自己資本比率	33%	36%	—	—

(百万円未満切捨て)

総 資 産

- 売掛金や投資有価証券が減少した一方、
現預金や番組勘定が増加

負 債

- 普通社債が増加した一方で、買掛金やリース債務が減少

純 資 産

- 純利益の計上により、純資産は増加

キャッシュフローの状況

	2017年度	2018年度
営業キャッシュフロー	△ 98	407
投資キャッシュフロー	△ 234	△ 4
財務キャッシュフロー	△ 358	△ 149
現金及び現金同等物の増減	△ 687	252
現金及び現金同等物の期末残高	1,616	1,869

(単位：百万円) (百万円未満切捨て) ※上記表中には「現金及び現金同等物に係る換算差額」は記載しておりません

営業キャッシュフロー

- 税引前利益240百万円を計上したことに加え、売掛金の減少や前受金の増加等により、プラス407百万円

投資キャッシュフロー

- 投資有価証券の売却による収入があった一方で、固定資産の取得による支出等により、マイナス4百万円

財務キャッシュフロー

- 普通社債の発行があった一方で、リース債務返済等により、マイナス149百万円



2018年度決算概要

2019年度業績予想

経営統合について

これからのクラウドゲーム

【参考資料】

- ・ 事業セグメント別の業績

■ 通期の連結業績予想

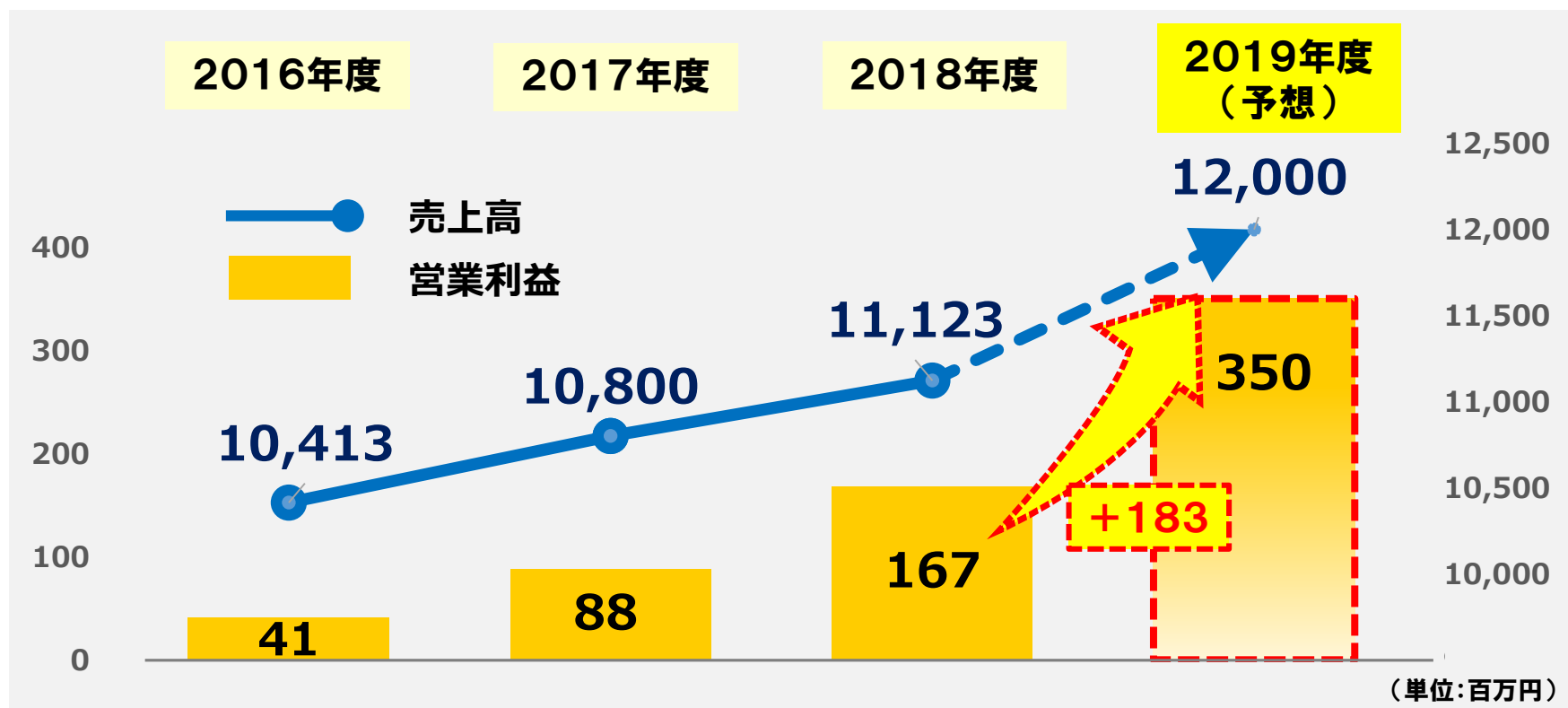
(単位：百万円)

	2018年度 実績	2019年度 通期業績予想	差異	増加率
売 上 高	11,123	12,000	↑ 877	8%
営 業 利 益	167	350	↑ 183	110%
経 常 利 益	203	360	↑ 157	77%
純 利 益	167	180	↑ 13	8%

- ✓ 「放送」「技術」は堅調に推移し、「コンテンツ」の成長を見込む
- ✓ その結果、営業利益・経常利益・純利益ともに増益となることを見込む

本資料に記載されている、当社の現在の計画・見通し・戦略・確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報にもとづき経営陣が判断した予測が含まれております。実際の業績は様々なリスクや不確実な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠することはお控えくださいますようお願い致します。

連結業績予想および株主還元について



■ 配当について

- ✓ 2018年度の期末配当につきましては、無配とさせていただく予定です
- ✓ 2019年度につきましても、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただく予定です



2018年度決算概要

2019年度業績予想

経営統合について

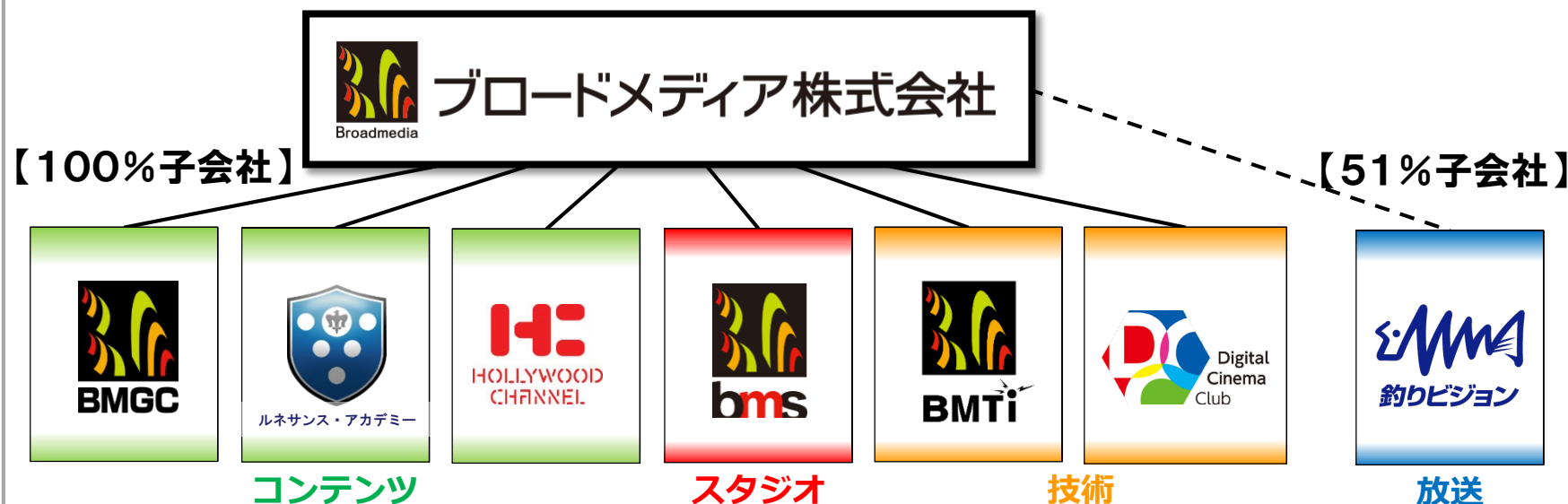
これからのクラウドゲーム

【参考資料】

- ・ 事業セグメント別の業績

これまでの体制

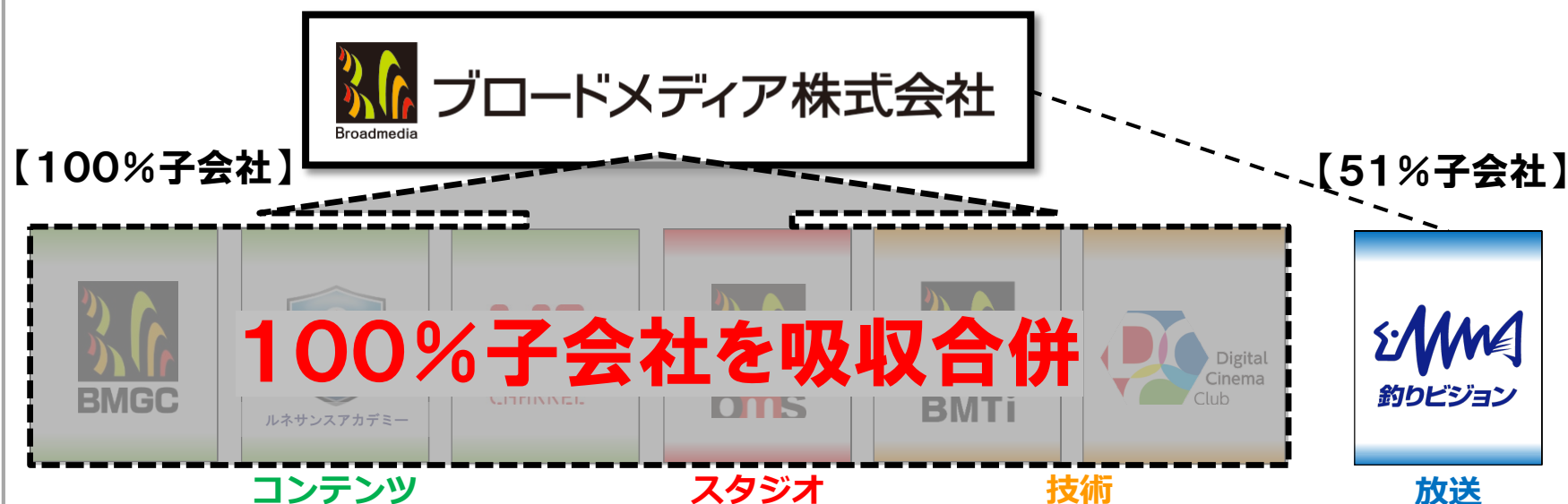
- 各事業に経緯があり、事業ごとに子会社化
- 迅速な意思決定と機動力を重視
- 時間をかけて100%子会社化を進めてきた



子会社間の連携が効かず“縦割り組織”となっていた

100%子会社6社のブロードメディアへの吸収合併を進める

- ガバナンスとコンプライアンス体制のさらなる強化
- 人材の最適化・人材育成の推進
- 管理部門等の集約による経営効率の向上



経営の効率化と事業間のシナジーを強化
(必要な準備を整え、今期中の実現を目指す)

今後のグループ体制

- ガバナンスとコンプライアンス体制のさらなる強化
- 人材の最適化・人材育成の推進
- 管理部門等の集約による経営効率の向上



経営統合により企業価値向上を推進

事業間のシナジーによる新たな取り組み

教育 × 技術サービス

- AIを用いた日本語教育システム等の開発(AIラーニング®)

教育 × ゲーム

- 独自のeスポーツ事業を展開

技術サービス × スタジオ

- 映画本編の映画館への配信拡大
- テレビCMや映像素材のテレビ局への配信拡大
- 映画館へのデジタル機材販売

2018年度決算概要

2019年度業績予想

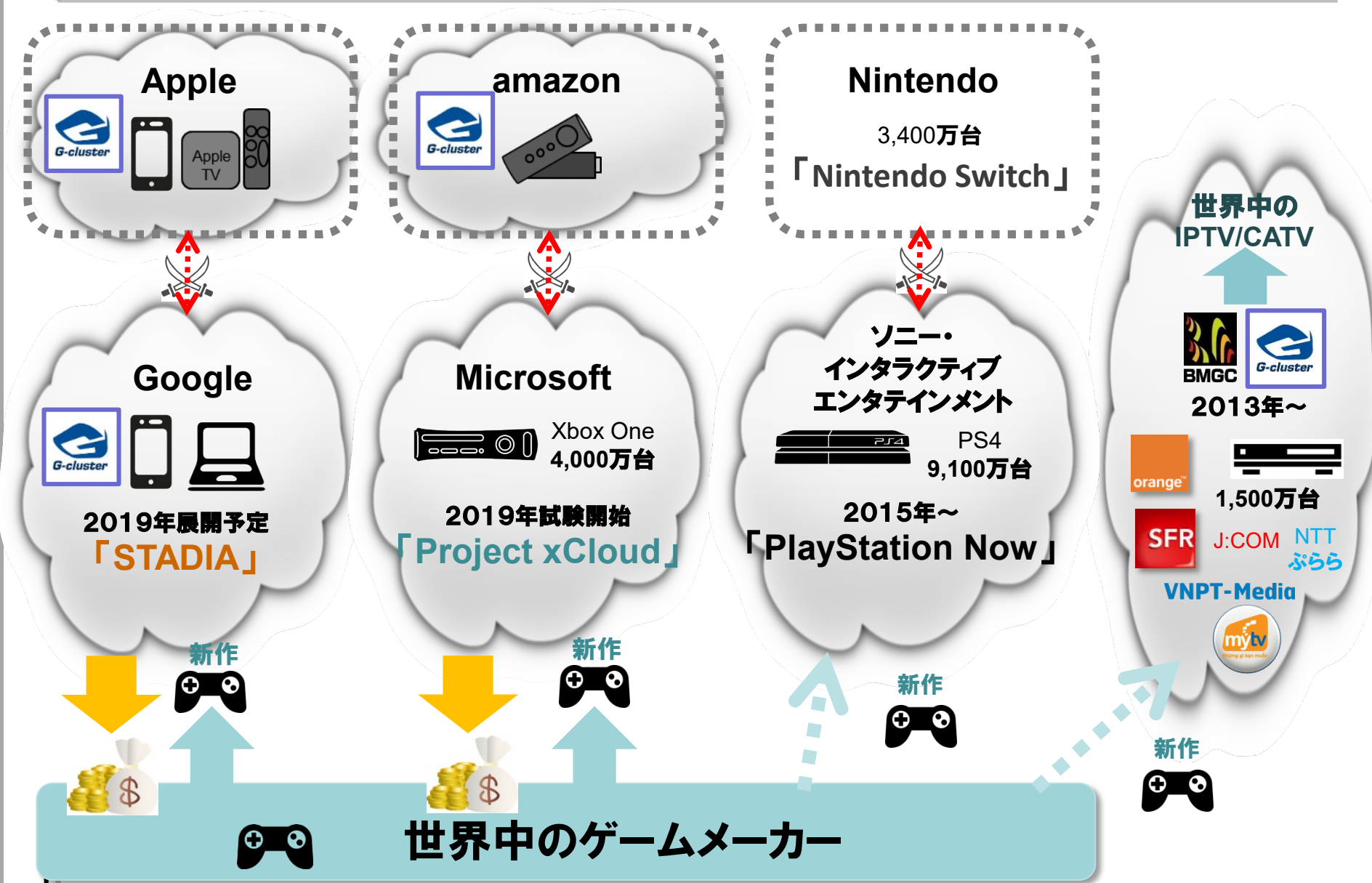
経営統合について

これからのクラウドゲーム

【参考資料】

- ・ 事業セグメント別の業績

クラウドゲーム時代の到来





- ✓ **すべての事業において、
新たな挑戦とさらなる収益機会の創出による
収益拡大を目指す**
- ✓ **全社的なガバナンスの強化と
コンプライアンス体制を強化**

**当社グループの持続的な成長の実現と
企業価値の向上に努める**

ご清聴ありがとうございました



Broadmedia

本資料に記載されている、当社の現在の計画・見通し・戦略・確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報にもとづき経営陣が判断した予測が含まれております。実際の業績は様々なリスクや不確実な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠することはお控えくださいますようお願い致します

2018年度決算概要

2019年度業績予想

経営課題

トピックス

【参考資料】

- ・ 事業セグメント別の業績

事業セグメント別の連結業績 ～コンテンツ～



	売 上 高		
	2017年度	2018年度	増減額
コ ン テ ン ツ	2,148	2,477	329

	営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額
	14	146	132

(単位：百万円) (百万円未満切捨て)

- セグメント全体では、増収増益
- 教育サービスは、入学生の増加により増収増益
- クラウドゲーム事業およびデジタルメディアサービスは、いずれも売上高が伸び、営業損失が縮小

◆クラウドゲームサービス

- ・クラウドゲーム「Gクラスタ」
- ・スマホ向けクラウドゲームアプリ
- ・通信事業者向けプラットフォーム

◆デジタルメディアサービス

- ・「クランクイン！ビデオ」
- ・「クランクイン！コミック」
- ・「クランクイン！」

◆教育サービス

- ・ルネサンス高等学校
- ・ルネサンス豊田高等学校
- ・ルネサンス大阪高等学校

事業セグメント別の連結業績 ～放送～



		売 上 高		
		2017年度	2018年度	増減額
放	送	2,980	2,901	△ 78

		営 業 利 益		
		2017年度	2018年度	増減額
		90	162	72

(単位：百万円) (百万円未満切捨て)

- 視聴料収入が減少傾向にあるものの、徹底したコスト削減の取り組みにより、減収増益
- 架空取引被害を教訓として、ガバナンス体制の強化と収益性向上を目的とした組織改革を進める

◆釣り専門チャンネル「釣りビジョン」

- ・衛星基幹放送事業(BS放送)
- ・ケーブルテレビ局等への「釣りビジョン」の提供
- ・その他

事業セグメント別の連結業績 ～スタジオ～



	売 上 高		
	2017年度	2018年度	増減額
ス タ ジ オ	2,592	2,270	△ 321

	営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額
	47	△ 36	△ 84

(単位：百万円) (百万円未満切捨て)

- 番組販売事業は、テレビ局向け番組販売が減少
- 制作事業は、受注が減少
- 映画配給事業は、前期に貢献したドラマ制作がなかったことが影響し、赤字幅が拡大
- その結果、売上高が減少し、赤字を計上

◆制作事業

- ・日本語字幕制作
- ・日本語吹替制作
- ・文字放送字幕制作
- ・番組宣伝制作

◆映画配給事業

- ・劇場映画の製作・配給
- ・DVD / Blu-rayの発売
- ・TV放映権の販売
- ・VOD権の販売

◆番組販売事業

- ・ハリウッド映画等のテレビ局への供給

事業セグメント別の連結業績 ～技術～



		売 上 高		
		2017年度	2018年度	増減額
技	術	2,311	2,658	346

		営 業 利 益		
		2017年度	2018年度	増減額
		384	460	75

(単位：百万円) (百万円未満切捨て)

- CDNサービスは、既存顧客向けの新たなソリューションやサービスの提供が増加
- デジタルシネマサービスは、好調に推移

◆CDNサービス

- ・ブロードメディア®CDN CMオンライン
- ・ブロードメディア・テクノロジーズ社のCDNサービス等

◆ホスピタリティ・ネットワーク

- ・ホテルの客室、会議室等へのインターネットサービスの提供

◆デジタルシネマサービス

- ・ブロードメディア®CDN for theater
- ・配信機器等の販売及びレンタル
- ・VPFサービスの提供

◆その他ソリューションサービス

- ・プライベートネットワーク「Aryaka」の提供
- ・対話型AIプラットフォーム「Passage AI」の提供

事業セグメント別の連結業績 ～ネットワーク営業～



	売 上 高		
	2017年度	2018年度	増減額
ネットワーク営業	767	815	47

	営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額
	4	6	1

(単位：百万円) (百万円未満切捨て)

■ ブロードバンド回線の販売の苦戦が続くが、利益を確保

◆ブロードバンド回線販売

◆ISPサービス販売

◆その他

事業セグメント別の連結業績 ～全社費用～



	営 業 利 益		
	2017年度	2018年度	増減額
全 社 費 用	△ 453	△ 572	 △ 119

(単位：百万円) (百万円未満切捨て)

- 釣りビジョンの架空取引被害に係る一時的な費用(約150百万円)が発生
- グループ全体を含め、短期的なコストを大幅抑制

◆グループ本社(ブロードメディア)の管理部門に係る費用・損益

カナダの新たな輝く才能が贈る、
胸にそっと仕舞っておきたくなる青春映画の傑作が誕生一。

映画『さよなら、退屈なレオニー』

～2019年6月15日(土) 新宿武蔵野館ほか全国順次公開～



(C)CORPORATION ACPAV INC. 2018

創造力が生み出す優れた作品やサービスを

広く社会に普及させ

より豊かなコミュニティの形成・発展に貢献する

<http://www.broadmedia.co.jp/>



Broadmedia

本資料に記載されている、当社の現在の計画・見通し・戦略・確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報にもとづき経営陣が判断した予測が含まれております。実際の業績は様々なリスクや不確実な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠することはお控えくださいますようお願い致します